

一般社団法人 日本リモートセンシング学会 学会誌執筆要領

1. 言語

日本語または英語を使用すること。

2. 原稿の作成と提出

- (1) A4 規格の用紙を用いてダブルスペースで作成する。1 段構成とし、上下左右に少なくとも 25 mm のマージンを確保すること。
- (2) テキストは Word 形式のファイルを提出すること。査読者の便宜を図るため、ページ番号および本文に行番号を付けること。
- (3) 図は tif, jpg, pdf 等の形式のファイルを提出すること、画像の場合は 300 dpi 程度の高解像度で低圧縮又は無圧縮のファイルを提出すること。
- (4) 表は pdf 形式のファイルを提出すること。

3. 論文等の長さ

刷り上がり 1 ページの字数は日本語の場合 26 字×50 行の 2 段構成、英文の場合 52 字程度×50 行の 2 段構成で、サイズは 250 mm×175 mm。

- (1) 論文 6 ページ以上 12 ページ以内
- (2) 小論文 6 ページ以内
- (3) 総説（レビュー）8 ページ以内
- (4) 解説 8 ページ以内
- (5) 速報 4 ページ以内
- (6) その他は内容を十分に伝えることの出来る最適の長さとする。

なお、ページ数超過分の印刷については別に定めるオーバー・ページ・チャージを徴収する。但し、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

4. 論文等の構成

論文等の原稿は、次の順序で作成すること。

- (1) 論文題名（和文）
- (2) 著者名（和文）（連絡所者に*を付すこと）
- (3) 論文題名（英文）
- (4) 著者名（英文）（連絡所者に*を付すこと）
- (5) e-mail アドレス
- (6) 所属および住所（和文）（英文原稿の場合は不要）
- (7) 所属および住所（英文）
- (8) 概要（英文、300 語以内）（論文・小論文・技術報告・総説（レビュー）は必須。その他の原稿は任意）
- (9) 英文キーワード（4-5 ワード）

- (10) 本文（和文）
 - (11) 謝辞（和文）
 - (12) 引用文献
 - (13) 付録（和文）
 - (14) 概要の和訳（英文原稿の場合は不要）
 - (15) 著者紹介（和文）（各著者 300 字以内）及び顔写真（採録決定後に提出する。顔写真は任意。）
 - (16) すべての図，写真，表
 - ・図，写真，表は本文原稿中に挿入せず，別のシートとして作成すること。
 - ・表題は原則として英語とする。
- なお英文原稿の場合は，上記の構成で，(9)～(13) および (15) を英文にすること。

5. 用字と用語

- (1) 特殊な用語や略語が多用される場合は，参考文献の次に用語・略語の説明をまとめることが望ましい。
- (2) 句読点は，句点「。」と読点「，」を用い，それぞれ全角を用いること。（なお，参考文献リストおよび英文の場合は，半角の「.」，「，」とし，その後に単語が続く場合は，半角スペースをひとつ入れること。詳細は付録参照）

6. 見出しについて

- (1) 大見出し “1. ” など センタリングする。
 - (2) 中見出し “1. 1” など 左つめ
 - (3) 小見出し “1. 1. 1” など 左つめ
- これより下位のレベルは，著者の任意とする。

7. 図，写真，表

- (1) 全ての図，写真，表は，本文中で引用すること。
- (2) 本文中に，たとえば[Fig. 1]のように，おおよその図表挿入位置を明記すること。
- (3) 図表の中の用語および説明は，原則として英語を用いること。
- (4) 図，写真，表は，論文の最後にまとめること。
- (5) 図表の説明

（例 1）表および図（カラーを含んで本文中に挿入する場合）

表のとき : Table 1, Table 2, …… , Table 10

図または写真のとき : Fig. 1, Fig. 2, …… , Fig. 10

カラー写真等で，本文中ではなく論文最後にまとめて掲載する場合 : Plate 1, Plate 2, …… , Plate 10

（例 2）文章中の表現……を Fig. 1, Table 1 および Plate 1 に示す。

Fig. 1 Concept of remote sensing systems.

Plate 1 Outlook of the sensor.

Table 1 Summary of spaceborne passive sensors.

Fig. 10 SST vs. brightness temperature.

Table 10 List of dataset used in this study.

Plate 10 SAR image of the region.

8. 引用文献

(1) 引用文献の範囲：原則として公開出版物の範囲に留めること。

(2) 引用の仕方

本文中の該当する箇所に半角で“1)”等の上つき番号を出現順に付けて引用すること。

(3) 引用文献リストの書き方

引用文献リストは付録の形式を参考にして作成すること。著者が複数の場合も、原則として全著者の氏名（英語の場合は氏とイニシャル）を記入すること。英文論文標題中の単語については、文頭および固有名詞などで必要な場合以外は小文字を使用すること。

(4) 雑誌名の略記

通常、学術雑誌名は（特に英文雑誌などでは）かなり長いので、雑誌名の理解を妨げない範囲で略記を行なってよい。また編集段階で学会側で略記形式に変更することがある。

(5) 査読者が入手しにくい引用文献は、編集委員会の判断でコピーなどの提出を求めることがある。

(6) ウェブサイトを引用する場合は、最終アクセス日付を（Accessed 2020. 12. 25）のように記載すること。

9. 他誌から本誌に引用する場合の注意

(1) 引用する文献の著作権に十分注意すること。

(2) 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、著者の責任で事前にその著者および出版社の了承を得ること。

付録 引用文献リストの書き方（ガイドライン）

1. 雑誌

1) 著者名：標題，雑誌名，巻（号），pp. をつけて始め一終りのページ，年（西暦）。

1) 東京太郎，大阪次郎：リモートセンシング学会誌の書き方，日本リモートセンシング学会誌，18（1），pp. 20-27，2019.

1) T. Tokyo and J. Osaka: How to write RSSJ, J. Remote Sens. Soc. Japan, 18 (1), pp. 20-27, 2019.

2. 著書，編書

2) （編）著者名：書名，発行所，発行都市名，発行年（西暦）。

2) 東京太郎（編）：リモートセンシング技術辞典，リモートセンシング出版，東京，2019.

2) T. Tokyo (ed.): Handbook of Remote Sensing, RSSJ Publ. Co., Tokyo, 2019.

3. 著書の一部を引用する場合

3) 著者名：表題，書名，編者名，章番号をつけて始め一終りのページ，発行所，発行都市名，発行年（西

暦).

3) 大阪次郎：受動リモートセンサ，リモートセンシング技術辞典，リモートセンシング出版，東京，2019.

3) J. Osaka: Basic of Remote Sensing Handbook of Remote Sensing, T. Tokyo (ed.), Chap. 2, RSSJ Publ. Co., Tokyo, 2019.

4. 国際会議

4) 著者名：表題，会議名，都市名，国名，論文番号，pp. をつけて始め—終りのページ，月（英語）年（西暦）.

4) T. Tokyo, S. Nagoya and J. Osaka: How to study microwave remote sensing, Proc. Inter. Symp. on Remote Sensing, Tokyo, Japan, B-11, pp. 3-13, Feb. 2019.

5. 国内大会，研究会論文集

5) 著者名：標題，学会論文集名，分冊または号，論文番号，pp. をつけて始め—終りのページ，月（英語）年（西暦）.

5) 東京太郎，大阪次郎：リモートセンシングデータの表現，日本リモートセンシング学会第 67 回学術講演会，A-1, pp. 4-5, Nov. 2019.

6. インターネットサイトの引用：

6) 著者名：標題，<https://www.rssj.or.jp/journal/gakkaishi/> (Accessed 2020. 12. 25) (著者不明の場合は，和文では「著者不明」，英文では「Anonymous」とする)

7. 日本語での著者名に関する注意事項

姓と名の記述は，次の例にならうこと：東京太郎，大阪 仁，京 花子，林 葵，森信一郎，山田洋一郎

平成 19 年 1 月 10 日 改定

平成 24 年 7 月 18 日 改定

平成 24 年 9 月 10 日 改定

平成 27 年 1 月 9 日 改定

令和元年 12 月 19 日 改定

令和 2 年 12 月 25 日 改定